

普及活動情勢報告（令和4年1月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

シシトウ新品種について勉強しよう！～土長地区長岡シシトウ部会～



現地検討会の様子

12月24日、J A高知県土長地区長岡シシトウ部会の現地検討会が、開催され、生産者4名が参加しました。

今回は、農業技術センター園芸育種担当、先端生産システム担当が研究中の、シシトウ新品種の試験ほ場を見学しました。

農業改良普及課からは、管内で実施している実証試験の現状について報告しました。

参加者からは、「花抜けの程度や果形はどうか」、「いつ頃品種登録されるのか」、「栽培してみたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もシシトウ新品種の現地実証試験に取り組み、産地での適応性を評価していきます。

高単価期の安定出荷に向けて～ニラを目慣らし会の開催～



ニラ目慣らし会の様子

12月24日、J A高知県野市集出荷場及び土佐山田集出荷場において、香美地区ニラ部会の目慣らし会が開催され、生産者25名（野市11名、土佐山田14名）が参加しました。

J Aから荷姿サンプルを用いて、手直しや返品、等級落ちの基準について説明がありました。生産者からは、サンプルを熱心に確認した後、等級が落ちる基準について質問がありました。

農業改良普及課からは、管内でのアザミウマ類の発生傾向を報告し、早期防除について指導しました。また、物理的防除やハウス周りの雑草管理についても注意喚起しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、ニラの生産安定を支援していきます。

国営農地整備事業後の露地野菜の産地化に向けて ～第4回土地利用型園芸農業研究会を開催～



意見交換を行う普及指導員

12月21日、J A高知県南国営農経済センターで、第4回土地利用型園芸農業研究会が開催され、南国市土地利用型園芸研究会並びに、南国市、J A、振興センターの関係機関が出席しました。

会では、現在取り組んでいるキャベツのドローン撮影による欠株判断技術の現状報告について、また、有望品目に挙げられているカンショや春カボチャの栽培適性試験について協議を行いました。

参加者からは、「カンショの規格外品の活用も考えてもらいたい」などの意欲的な意見がありました。

農業改良普及課では、関係機関と協力して、有望品目の栽培適性試験を行い、露地野菜の産地化に向けて取り組んでいきます。

厳寒期に向け目慣らし会を開催！～土長地区長岡ピーマン部会～



ピーマン目慣らし会の様子

12月24日、J A 高知県土長地区長岡ピーマン部会の出荷物目慣らし会が開催され、生産者11名が参加しました。目慣らし会は11月に引き続き2度目の開催となり、冬場の出荷物について生産者が意見を交わしました。

農業改良普及課からは、今後の施肥管理について説明しました。生産者からは、「等級に迷うものはマルAに入れたらよいか」、「自分のほ場のEC値がどうなのか知りたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携してピーマンの安定生産のための支援を行います。

ユズ農家への定期便 ～物部柚子生産部会「ゆず便り」～



「ちょっと硬い」との意見もある紙面

1月5日、J A 高知県香美地区物部柚子生産部会員171戸に「ゆず便り」新年号（第15号）を配布しました。

「ゆず便り」は、人を集めての情報提供がしづらい社会情勢を踏まえ、農業改良普及課とJ A 香美地区が協力して作成し、一昨年の5月から配布を始めました。昨年は8回の発行で、時期ごとの栽培管理や地域の動きなどの情報を提供しました。

生産者からは、「やらないかんことが抜からんように教えてくれてありがたい」といった声が多く寄せられました。今年は毎月、栽培管理や地域の動きをお知らせする予定です。

農業改良普及課では引き続き関係機関と協力して、状況に応じた方法で、タイムリーな情報提供を行っていきます。

農福連携研修会 i n なんこくの開催



農福研修会開催の様子

南国市農福連携研究会が、1月13日に南国市のザ・ミーニッツで農業者や農業関係者、福祉関係者50名及びZoom接続33カ所を対象に「農福連携研修会 i n なんこく」を開催しました。

農業改良普及課は、全体の企画、講師や事例発表者の調整、Zoom配信等の支援を行いました。

参加者からは、「農福連携の事例をもっと聞きたい」「雇い方に関する勉強をしたい」「就労後のフォローが大事」など多くの声が聞かれました。

農業改良普及課では、管内の他市での研究会の立ち上げや、農福連携の理解促進に引き続き取り組んでいきます。